

つなぐ



むすぶ

広げる

140周年を迎える  
新体制決まる!!

吾 峰

第155号

福島大学  
人間発達文化学類  
同窓吾峰会 会報

## 会長に就任して

同窓吾峰会長  
野崎 修司

令和七年五月十八日の同窓吾峰会評議員会で会長に選出されました。同窓会を取り巻く昨今の現状から、身の引き締まる思いをしております。もとより、その器ではありませんが、皆様のご支援ご協力を頂きながら、誠心誠意尽力して参りますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

前任の峯島会長には令和三年より令和六年まで2期4年にわたりご尽力を頂きました。コロナ発生直後の就任で、社会はもとより本同窓会でも、その対応に苦慮してお

## 会長を退任して

前同窓吾峰会長  
峯島 和彦

本会会員の皆様方には益々ご健勝のこととお喜び申し上げます。

私こと去る五月十八日の評議員会において会長の職を退任させて頂きました。

令和二年二月から続いたコロナ禍により、令和三年五月の評議員会は前年に続いて中止となりました。そのため私は書面で評議員の皆様のご承認を賜り、会長に選出されました。また千葉前会長さん並びに本



令和7年度 評議員会 ②

りました。

年1回の吾峰会大会の中止、コロナによる本部・支部活動の停滞等々、多くの課題を抱えながらの船出となりましたが、会長は副会長を始め、各支部長との連携を図り、無事乗り切れました。

意見を中心に、その対策として10年毎に改訂される「会員名簿」の刊行、県外同窓生への会報「吾峰」の購読調査及び発送等を実施しました。

また、並行して20年ぶりの大学改革が進行していった。人間発達文化学類から(仮称)教育学部への変更は、教育関係者の多くが好意的に受け止めております。峯島会長は「人口減少



140周年実行委員会 ⑦

社会がもたらす大学再編の未来を想像しながらの同窓会運営が課題である」と考えておられました。このように、吾峰会を牽引してこられた峯島会長には、感謝の念に堪えません。

今年度の吾峰会大会は県南方部郡山支部が担当です。大会は支部の独自性を尊重して行われます。テーマは「再会を喜び、親交と絆を深めよう」です。県南方部の協力は勿論ですが、各支部の皆様のお力添えで、大会が盛大に行われますことを願って、挨拶いたします。



卒業・入会祝賀会 ⑩



研究奨励事業 ⑪・⑫

部役員が退任される場の設定もできず、後から本部役員が参加して送別会を開催したことが思い出されます。

周年を迎え、記念事業の運営では本部事務局の一員として活動することができました。中でも創立130周年記念誌「吾峰会130年のあゆみ」の発刊に携わり、記念誌編集の大変さと達成感とを味わうことができました。貴重な体験となりました。

令和六年度には本会創立140周年(令和九年)の記念版として本会の会員名簿が刊行されました。十年振りの刊行でしたが、本部の皆さんがそれぞれに創意

工夫し、協力し合って完成させました。会員名簿の発行に携わられた皆様に深く感謝申し上げます。

五月の末に本部広報部長(会報編集委員長)の持地隆一先生が急逝されました。突然の訃報に接し、ただ残念でなりません。これから本部役員一同力を合わせて活動を続けてまいりたいと思います。先生のご冥福をお祈り申し上げます。



## 令和七年度 吾峰会評議員会開催

峯島会長退任で野崎事務局長が新会長に!!

令和七年度の評議員会は、五月十八日(日)に福島大学人間発達文化学類2階大会議室で開催された。

北海道、岩手県、愛知支部や宮城県、福島県の各支部から58名の評議員が新緑に包まれた金谷川キャンパスに集まった。

評議員会は、山寺事務局次長が進行し、峯島会長の挨拶の後、学類長の牧田実様から祝辞があり、伊達支部の松浦常雄支部長を議長に選出して報告事項・議事

に入った。

○今年度の主な事業計画  
・吾峰会郡山大会開催  
十月十一日(土)

・組織強化委員会開催  
・研究奨励事業作品募集  
本部締切九月三〇日(火)

・会報発行  
155号・156号

・福大ホームカミングデー  
卒業・入会祝賀会  
令和八年三月二十五日(水)

続いて  
○会則・諸規定の改正

○創立140周年記念事業等の議題が審議され、承認された。

また、今年度は役員改選の年度にあたり、役員選考委員長より新役員の選考結果の報告があり、承認された。

○新役員

会長 野崎修司(新)

副会長 鈴木隆(再)

副会長 渡部裕二(新)

副会長 島義一(再)

監事 大堀満広(再)

監事 鈴木昭夫(新)

なお、評議員会に先立ち永年勤続支部長表彰が行われた。(p4参照)

また、郡山支部からは、同窓吾峰会郡山大会の内容が紹介された。

### 監事会開催

令和七年度の監事会が、四月十五日(火)に行われた。

松坂知代子、大堀満広両監事により令和六年度一般会計、同特別会計の監査が厳正に行われた。事業報告の後、一般会計は我彦会計部長、特別会計、積立金は関口積立金管理運営委員長、組織強化費は山寺組織部長、慶弔費は梅津事務員が説明を行った。何れの決算についても相違ないことが認められた。

### 第1回常任理事・理事会開催

令和七年度第1回常任理事・理事会が四月二十四日(木)に行われた。鈴木昭雄理事を議長に選出して、令和六年度報告事項や令和七年度事業計画等について協議した。組織強化委員会より、支部未加入会員への働きかけを検討したいという報告があった。また、評議員会の開催について内容や準備の確認をして会を閉じた。



監事会



新役員紹介



各支部から活発な意見交換



野崎事務局長から報告

## 新学類長あいさつ



人間発達文化学類長  
牧 田 実

本年4月、人間発達文化学類長に就任しました。福大は改革の真只中。本学類は、2年後、教育学部に復帰の予定。私の任務は、教育学部再生までの舵取り役となります。

新教育学部でどんな教員を養成するのか。①社会・地域に学び、未来を創造する人を育てる教員、②主体的・協働的に学び続け、学校教育を支える教員と見定め、「教員養成福島モデル」を構築したいと思っています。具体的には、「探究」を軸に据えた5つのコース(地域課題探究、グローバル探究、STEAM教育、教育臨床、インクルーシブ教育)を置き、地域課題探究拠点校での実習や4年間を通して学校現場での学びによって「福島ならではの学び」を実現します。教員免許は卒業要件となり、小1種・中2種または中1種・小2種の複数免許取得を基本とします。「理科」を復活し、「特別支援」「情報教育」「公認心理師」のチャレンジプログラムを設定します。卒業後、福島県の教員にな

ることを希望する学生向けの「地域枠入試」も導入します。地域との連携も強めていきます。県立高校「教育コース」の高校生を対象として、夏休みに「高校生セミナー」を開催しています。3年目となる今年は400人ほどが参加する見込みです。またこれらの高校生を対象に大学の単位の先取り履修も始めています。

一方、今次の改革では大幅な教員数削減が課せられています。「音楽」「美術」免許を断念、附属幼稚園は廃止となり、幼稚園免許からも撤退。こうしたいわば背水の陣で235名の入学定員をいかに確保し、教育の質を保証し、教員を安定的に輩出していくのかという難題に挑んでいくことになります。

任期は2年。これは私の大学人としての最後の2年でもあります。最後に振られたこの大役を楽しみむくればと思っています。末筆ながら、同窓会のみなさまの本学類へのいっそうのご理解とご支援をお願いいたします。ご健勝とご活躍を祈念し、就任の挨拶とします。

## 今、学校現場では…

### 若手教員の育成は本県教育の未来を拓く鍵



福島県小学校長会会長  
福島市立清明小学校長

小野 真 教

現在、学校現場は複雑かつ多様な課題に直面し、その対応に窮しています。いじめの深刻化、不登校児童生徒の増加、特別な支援を必要とする子どもの増加、慢性的な教員不足、ICT活用指導力の向上、働き方改革の推進など、課題は山積しています。特に危惧されるのが、ベテラン教員の大量退職により若年層教員が急増していることです。これにより、若手を指導できる教員が不足し、長年培われてきた教員文化等の継承が困難になっています。生徒指導上の問題解決、保護者対応、授業の基礎基本が十分に身につかないまま20代を



過ごす教員の増加は、教育の質の低下に直結しかねない喫緊の課題です。昨年度の本校の例を挙げると、全学年1クラスの学校で、通常学級担任のうち20代の若手教員が4名、40代が1名、50代が1名という年齢構成でした。また、福島市内の学校全体でも、50・60代のベテラン層が多く、30・40代が少ない一方で、20代が増加傾向にあります。このような状況において、若年層教員の育成は各学校にとって重要な経営課題です。各学校は工夫を凝らし対応策を模索していますが、育成を支えるべき中堅教員が不足している現状では、長年の経験を持つベテラン教員の力が不可欠です。昭和、平成、令和の3時代を生き抜き、3度の学習指導要領改訂を乗り越えてきたベテラン教員は、まさに教育の熟練者です。学級経営、学習指導、生徒指導、保護者対応など、あらゆる面で豊富な経験と知識を有しています。ベテラン教員が大量に退職する前に、その力を最大限に発揮し、若手教員の成長を後押ししていただきたいと思っています。

一方で、若手教員はICT活用や外国語教育などで高い能力を発揮し、そのフットワークの軽さも強みです。しかし、保護者対応や児童生徒の状況把握、授業の基本的な構成といった点では課題を抱えることも少なくありません。これからの教育現場では、ベテラン教員の持つ「不易」の知識・経験と、若手教員の持つ「流行」の新たな能力を融合させ、お互いの強みを学び合うことで、教員全体の資質向上を図ることが不可欠です。そのためには、学校組織全体として、意図的かつ計画的に教員育成を進める必要があります。



先日、令和8年度教員採用試験の倍率が発表されました。本県における教員採用試験の倍率は低下傾向にあるようですが、教員のなり手不足、人材不足は学校教育の根幹にかかわる大きな問題です。学校には、これまででない大きな変革の波が押し寄せ、課題が山積しています。知恵を出し合いながら、教育活動の充実に取り組んでいます。

先日の「個別最適な学び、協働的な学び」教師にとっての「生徒が主語となる授業作り」に大きな役割を果たしています。タブレットを使うことにより、生徒は必要な情報を瞬時に検索したり、意見や考えを画面上に示しながら話し合ったりすることが出来ます。教師は、すべての生徒の考えを画面上で一斉に確認することが出来ます。どのように発問し、意見をつなげていけばいいかなど、その後の授業展開を考える上での一助となっています。

不登校生徒の増加という現実には直面しています。不登校の主な理由としては、「無気力、不安、抑うつ」などの心理的な要因、いじめを除く友人関係、学業不振などがあげられています。これらに加えて、コロナ禍による生活リズムの乱れやICT社会の影響など、多様な背景があるようです。一人一人に応じた丁寧な支援が求められる中で、スクールカウンセラーや外部専門機関との連携がますます重要になっています。

### 中学校体育大会開催の変更

菅野 浩 智

福島県中学校長会会長  
福島市立福島第三中学校長

これまで、福島支部においては、中学校体育連盟が主催する中学校体育大会は、6月に、福島、伊達、安達それぞれで支部大会が行われ、その後、県北地区大会が開催されてきました。今年度からは、支部大会を行わず、県北地区大会から開催することになりました。また、9月の新人大会も開催しないことになりました。生徒数の減少、部活動の地域展開等を踏まえ、活動そのもののあり方及び大会等のあり方を見直すことが求められています。課題は山積していますが、今後も教職員一丸となって生徒にとっての「楽しい学校」づくりに努めてまいります。吾峰会の皆様には、今後も変わらぬご指導・ご支援を賜りますようお願いいたします。

(平成元卒 福島支部)





## 永年勤続支部長 感謝状贈呈 評議員会にて代理受領



現愛知支部長へ



現仙台支部長へ

令和七年度評議員会開会前に、長年にわたり支部長を務めていただきました3名の方々へ、感謝状の贈呈を行いました。当日は、仙台支部と愛知支部の新支部長様に代理受領していただきました。受賞者は次のとおりです。

前河沼支部長  
新井田明義様  
(9年間)

前仙台支部長  
結城正芳様  
(17年間)

前愛知支部長  
伊勢呂彰治様  
(15年間)

長い間本当にありがとうございました。

### 前仙台支部長 結城 正芳様

昭和五十年代後半だと記憶しています。宮教大附属幼稚園に、高齡のご婦人が「福島大学の卒業生を探しているところですが」と訪ねてこられました。

この方が仙台支部生みの親樋口綾子先生です。市教委に出向き、全教職員を調べご自分一人で確かめて名簿を作成していったそうです。数年後の総会の席で、昔話として、みなさんから温かい言葉をかけていただいたことが一番忘れられないことで感謝しているとお話がありました。樋口先生のご尽力のお陰で吾峰会仙台支部を誕生させることができました、現在に至っています。

発足当時は附属幼稚園に一人附属小学校に六人の福大卒業生(含私)がおりました。仙台市内では大所帯だったもので、事務局を引き受けることになったのだと思います。初代会長は今井先生、鈴木勝郎事務局長、私が二代目。記憶はとぎれがちです。小学五年生まで福島に住んでいた私にとって福島は第一の故郷です。吾峰会の益々のご発展をお祈りします。感謝！  
(昭44卒)

### 前愛知支部長 伊勢呂 彰治様

平成21年より令和5年に至る15年間愛知支部長を務めさせてもらいました。

例えば、発足前に山田稔さんより「同窓吾峰会愛知支部を作りませんか」と言われた時は本当にびっくりしました。

期せずして、「吾峰会郡山大会」に参加し、役員の方から「会を紹介させていただきますので、一言お話を」と言われ、すごく緊張した事を、支部の皆と飲むたびに思い出します。

併せて、福大の陸上部等の活躍を肴に、酒が進んだのも今では懐かしく楽しい思い出です。

また、設立前後のことを申しますと「同窓吾峰会で、最も西に位置すること愛知で、産声を上げること福大卒業生として大変意義がある」を念頭に取り組みました。皆の力で、なんとか船出ができました。

長きに渡り支部会員の支え、取り分け私の後任となる山田氏に感謝です。今後は、関西支部等の発足も期待されるのでは。福大吾峰会の益々のご発展をご祈念申し上げます。  
(昭49卒)

## 皆様からのおたより

会報「吾峰」151号で「紫雲寮歌をご存じありませんか?」(HPで閲覧可能)をご紹介しましたが、その依頼者である久保田亮次様から、紫雲寮歌を歌ったCDと、大熊町にお住まいだった久保田様が、東京電力福島第一原子力発電所事故により、34年間住まわされたご自宅を去り、避難生活を送ってこられた現状が綴られていましたのでご紹介いたします。

### 久保田亮次様の避難歴

平成23年3月11日

東日本大地震発生(M9)

東京電力福島第一原子力発電所1、3号機自動停止・すべての電源喪失

3月12日

大熊町全町避難指示、田村市へ避難開始(関東方面からバス50台来る)

1号機水素爆発

田村市船引・春山小学校家庭科室の板の間で毛布一枚で過ごす

3月21日

猪苗代町「ペンションぽんた」で、3家族8名で共同生活

4月1日

会津若松市門田町・アパートの2階で生活

10月1日

会津の寒い冬を避けていわき市内郷・奥様の長姉の家の2階を間借りして生活

平成28年3月22日

【4年4ヶ月間】

終の住み処として

「いわきふるさと」の楽園」にご夫婦で入所され現在に至る

## 皆様からのおたより大募集!!

「学生時代の思い出」・「クラス会・サークル会の写真・記事」・「会報の感想」など、どしどしお寄せください。連絡先はP12へ

メール・郵便 お待ちしております



吾峰会HP↑

大熊町の自宅があったところは、町の再建計画により土地の提供要請があったので承諾し、現在は公園になったそうです。

奥様とは令和5年にダイヤモンド婚を迎えられ、お二人ともお元気にお過ごしです。

紫雲寮歌を歌ったCDを拝聴しましたが、とても元気な声で、今でも忘れることなく歌われることに驚きました。きっと、歌っている時は学生時代にいられたのではないでしょう。か。(昭31卒 双葉支部)



## 支部紹介のコーナー

## 支部紹介のコーナー





# 二〇二五年度賀寿該当者 長寿おめでとうございませす

今年度の賀寿贈呈該当者は、昭和五年四月〜昭和六年三月末日生まれの方です。

・仁科 武芳様  
・岩佐 敏子様  
・佐川 衆雄様  
・渡部 テイ様  
・二瓶 英子様  
・吉田 ヒデ子様  
・大島 キイ様  
・関川 昭様  
・角田 利朗様

・西白河 相馬様  
・佐藤 芳江様  
・白石 佳子様  
・本田 明世様  
・矢部 幹江様  
・山崎 英子様  
・宮川 サト子様  
・辰野 美智子様  
・阪路 哲也様  
・遠藤 タキ子様

・福 川 島  
・石 村  
・田 瀬  
・岩 島  
・新 湊  
・会 津  
・郡 山  
・岩 瀬

◎前年度贈呈者

◎今年度贈呈者

◎浦野 一郎様(会津)



国語の先生でしたが、部活動はずっと水泳部を担当し、退職後も水泳連盟に関わって活動していました。現在もお元気に過ごしています。

◎佐川 芳雄様(いわき)



とてもお元気な様子で、お勤めになっていた頃のエピソードや教え子との交流など、貴重なお話をたくさん伺うことができました。「健康でいられるのは生徒と共に体を動かしていたから」とのお話も拝聴しました。

◎平間 巍様(いわき)



「健康を維持するには体を動かすことが大切」とのことと、数年前までは、毎日プールに通っていたとお話くださいました。

◎佐川 衆雄様(東葛)



退職後、水の案内人、森の案内人、図書館長、文化財保護員等、多方面で活躍されました。パソコンで日記をつけて、頭と指を動かしているそうです。

・遠藤 忠蔵様  
・長嶺 孝子様  
・白岩 清様  
・酒井 紀子様  
・酒井 秀子様  
・横山 芳子様  
・三好 貞臣様  
・猪俣 カツ様  
・菅野 茂様  
・武田 タツ子様  
・本多 幸雄様

・福 津 島  
・会 津  
・田 沼  
・河 島  
・福 馬  
・相 山  
・郡 達  
・伊 達  
・双 葉  
・安 達  
・安 達

◎石向 正和様(郡山)

奥様に迎えて頂きました。ご本人は急に入院されましたが、それまではご夫婦で元気に暮らしていたとのこと。退職後は市の納税組合委員や交通安全協会委員、また地元富田町の史談会会長などを務め、活動的に生活しており、今日を楽しみにしていたとのことでした。

◎白石 信雄様(東葛)



初めて赴任したころは、学校に教材教具がなく苦労しました。鏡石一小での県の指定を受けた体育の研究公開の成功がよい思い出です。長寿の秘訣は、薬を飲まず百薬の長を飲むことです。

◎山川 進一様(福島)



師範学校最後の卒業生であり、学芸学部1期生であること、当時の様子や学芸部員で苦労されたことなどを話されるお姿は、終始背筋が伸び、豊饒なスクラップに伝わっているとのことでした。

◎渡部 テイ様(会津)



昔のことを思い出されて感極まり、涙ぐまれていました。現在施設に入所のため、ガラス越しではありましたが、お祝いを直接伝えることができました。

◎関川 昭様(郡山)



とてもお元気で、口調も明朗快活です。退職後は地域の神社の役員や公民館での活動のまとめ役、退職女性教員の会の役員などをされ、現在も地域のために活動されています。

◎白石 佳子様(石川)



日常の買い物が丁度よい運動になっています。週の半分ほどは地域のライフケアステーションでの交流やゲームも楽しんでいます。教員時代に中学校国語科教員であったことが影響してか、漢字パズルは、つい夢中になってしまいます。

◎二瓶 英子様(会津)



「戦後、軍国主義から民主主義への切り替えが大変でしたが、子どもたちに平和を説く喜びを味わえた」と、意味深いお話を伺うことができました。

◎佐藤 芳江様(福島)



福島二小へ赴任時、加藤泰さんを46年間の3年間担任。彼は小柄で、込み入った思案、大人しい子だったと懐かしそうに話されていました。日中はジャズダンスに親しみ、2・3年前まで踊っていたとのことでした。

◎角田 利朗様(岩瀬)



現在、先生は外に出ることは難しくなっていますが、自宅で元気に過ごしています。読書が大好きで、今でも読書に親しむとともに、毎日、新聞にも目を通しています。

◎山崎 英子様(福島)



大好きなお花の手入れをしながら大変お元気に過ごされています。学芸部一期生仲間との絆が強く、学芸部の楽しかった思い出を話していました。





持地隆一氏(広報部長・会報編集委員長の急逝を悼む)

温厚な人柄で、吾峰会ばかりでなく、多方面から頼りにされ、重責を担ってきた方でした。いくつもの仕事を掛け持ちしながらいつも前向きに真摯に取り組む姿は、私たち編集委員の憧れでもありました。

その委員長ですが、今年の五月に惜しまれながら亡くなりました。ご冥福をお祈りするとともに、残された編集委員一同、故人の思いを大切に会報の編集に携わっていきます。

ご指導・ご鞭撻をよろしくお願いいたします。

番号	支部名	支部長名	副支部長名	事務局	事務局長名	評議員名
24	山形	堀 泰治	矢口 勲	〒992-1443 山形県米沢市大字笹野1101 山形県立米沢興譲館高等学校 ☎ 0238-38-4741 FAX 0238-38-2531	猪俣 幸一	渡辺 俊三 小野 昭夫
25	千葉	活動休止中				
26	新潟	真柄 正幸	山本 武・桐生 春江	〒956-0011 新潟市秋葉区車場2-1-6 ☎ 0250-25-1750	金内敬太郎	真柄 正幸 金内敬太郎
27	愛知	山田 稔	齊藤 俊徳・大高 和人	〒452-0802 名古屋市西区比良4丁目288 ☎ 052-504-2920	盛 浩一	山田 稔 盛 浩一
28	岩手県	佐々木一郎	横田 一平・佐々木秀市	〒023-0401 奥州市胆沢区南都田字本木158 ☎ 090-7795-3911 FAX 0197-46-3911	高橋 佳文	佐々木一郎 高橋 佳文
29	北海道	市澤 豊	菊地 磯夫	〒063-0052 札幌市西区宮の沢二条 1丁目1-35-1102 ☎ 090-6269-7381 FAX 011-667-2165	児玉 佳範	市澤 豊 児玉 佳範

## 令和7年度 同窓吾峰会本部役員名簿

役職名	氏 名
顧問	服 部 秀 文
	齋 藤 正 寛
	千 葉 金之助
	峯 島 和 彦
	牧 田 実
会 長	野 崎 修 司
副 会 長	鈴 木 隆
	渡 部 裕 二 島 義 一
監 事	大 堀 満 広 鈴 木 昭 夫
	山 寺 精 吉 古 関 明 善 勝 見 五 月 我 彦 武 内 藤 良 行 佐 藤 秀 雄 川 崎 康 宏 菅 野 諭 山 縣 眞 二
理 事	菅 野 和 昶 飯 沼 信 一 鈴 木 昭 雄 根 本 眞 佐 藤 和 彦 塚 野 薫 佐々木 義 通 佐 藤 陽 一 尾 形 慎一郎 佐 藤 秀 美 佐 藤 浩 哉 佐 藤 浩 昭 鳴 川 哲 也 小 野 真 教 菅 野 浩 智

理 事	青 田 伸 一 遠 藤 博 晃
	幹 事
幹 事	茂 木 巧 菱 沼 明 美
	事 務 員
事 務 員	梅 津 浩 子

### 総 務 部

役職名	氏 名
部 長	山 寺 精 吉
副 部 長	古 関 明 善
会 長	野 崎 修 司
部 員	勝 見 五 月 我 彦 武 内 藤 良 行 佐 藤 秀 雄 川 崎 康 宏 梅 津 浩 子

### 会 計 部

役職名	氏 名
部 長	勝 見 五 月
副 部 長	菱 沼 明 美
部 員	塚 野 薫

### 組織部 組織強化委員会

役職名	氏 名
委 員 長	我 彦 武
副委員長	古 関 明 善
委 員	勝 見 五 月 内 藤 良 行 佐 藤 秀 雄 菅 野 和 昶 斎 藤 義 弘

### 研 究 部

役職名	氏 名
部 長	内 藤 良 行
副 部 長	茂 木 巧
部 員	佐 藤 陽 一

### 広報部 会報編集委員会

役職名	氏 名
委 員 長	佐 藤 秀 雄
副委員長	寺 岡 弘 之
委 員	鵜 沼 秀 雅 内 藤 百合子 小 山 智恵子 工 藤 裕 也

### 広報部 ホームページ委員会

役職名	氏 名
委 員 長	川 崎 康 宏
副委員長	馬 場 秀 之
委 員	菅 野 諭 尾 形 慎一郎

### 積立金管理運営委員会

役職名	氏 名
委 員 長	菅 野 諭
副委員長	勝 見 五 月
	会長・事務局長 事 務 局 次 長



## 令和7年度 同窓吾峰会支部組織一覽

(令和7年7月報告現在)

番号	支部名	支部長名	副支部長名	事務局	事務局長名	評議員名
1	福島	渋谷 朗	高橋 友憲・内藤 良行 福土 久子・高橋 正之 渡部 正晴	〒960-8254 福島市南沢又字柳清水20 福島市立清水小学校 ☎ 024-557-0135 FAX 024-558-4983	穂山 俊之	渋谷 朗 内藤 良行
2	伊達	松浦 常雄	齋藤 徹雄・菅野 善昌 佐藤 みゆき	〒960-0629 伊達市保原町弥生町15 伊達市立保原小学校 ☎ 024-575-3281 FAX 024-575-3282	鈴木 昭夫	松浦 常雄 齋藤 徹雄
3	安達	小泉 裕明	菅野真智子・菊池 勇人 福本 隆・菅野 芳弘 日下部準一	〒964-0904 二本松市郭内一丁目1 二本松市立二本松北小学校 ☎ 0243-23-0029 FAX 0243-23-0012	福本 隆	小泉 裕明 福本 隆
4	郡山	大堀 満広	上杉 辰男・阿部嘉代子 相樂 正人・大木 淳	〒963-8026 郡山市並木四丁目10 郡山市立大島小学校 ☎ 024-933-6761 FAX 024-922-9490	齋藤 博	大堀 満広 武藤 公夫
5	岩瀬	古田 浩	古川 久枝・渡邊 真二 佐浦 雅明	〒962-0059 須賀川市吉美根字土橋680 須賀川市立西袋中学校 ☎ 0248-76-5136 FAX 0248-63-1153	面川 祐哉	古田 浩 渡邊 真二
6	石川	蛭田 重経	富岡ケイ子・館 初浩	〒963-7808 石川郡石川町双里字川向165 石川町立石川中学校 ☎ 0247-26-2315 FAX 0247-26-3036	石沢 泰蔵	蛭田 重経 石沢 泰蔵
7	田村	山口 洋一	佐久間光春・佐久間金治 菅野 正秀	〒963-7759 田村郡三春町字大町157 三春町立三春小学校 ☎ 0247-62-3101 FAX 0247-62-3106	箭内 良一	山口 洋一 箭内 良一
8	西白河	北林 正紀	佐藤 正弘・野口意千朗	〒961-0914 白河市寺小路64-2 白河市立白河第三小学校 ☎ 0248-23-3243 FAX 0248-24-0296	清野 孝	北林 正紀 野口意千朗
9	東白川	永山 美雄	中島 一枝・矢吹 政徳 吉田 智	〒963-6142 東白川郡棚倉町山際字仙石103 棚倉町立高野小学校 ☎ 0247-35-2005 FAX 0247-35-2010	鈴木 雅人	永山 美雄 鈴木 雅人
10	会津	渡部 裕二	岩沢 隆・齋藤 幸男 橋本千賀子・鈴木 正和	〒965-0875 会津若松市米代一丁目5-33 会津若松市立謹教小学校 ☎ 0242-28-2100 FAX 0242-29-3405	大越 辰哉	渡部 裕二 大越 辰哉
11	耶麻	大堀 浄一	青山 邦夫・矢部 宥一	〒966-0806 喜多方市水上6868 喜多方市立第一小学校 ☎ 0241-22-2103 FAX 0241-23-1673	大堀 浄一	大堀 浄一 青山 邦夫
12	大沼	石井 幸雄	佐藤 信寛・北館 長一	〒969-6214 大沼郡会津美里町富川字上中川161-1 会津美里町立宮川小学校 ☎ 0242-54-2222 FAX 0242-54-2277	伊達 明美	石井 幸雄 佐藤 信寛
13	河沼	小林 政昭	山内 聖子	〒969-6553 河沼郡会津坂下町字石田甲650 会津坂下町立坂下南小学校 ☎ 0242-83-2046 FAX 0242-83-0966	大関 貴之	小林 政昭 山内 聖子
14	南会津	五十嵐利明	山本 恭士・大竹 成子	〒967-0004 南会津町田島字会下甲3316 南会津町立田島小学校 ☎ 0241-62-0042 FAX 0241-62-3220	栗木 孝直	五十嵐利明 山本 恭士
15	いわき	金内 三郎	笹川 直樹・沢 宏一 団野 勝一・小野 則夫 平子 宗司	〒970-8026 いわき市平字梅香町7-1 いわき市立平第二小学校 ☎ 0246-23-2413 FAX 0246-23-2414	渡邊 信貴	金内 三郎 渡邊 信貴
16	相馬	草野 正徳	飯塚 宏・村田 権一	〒975-0053 南相馬市原町区益田字塩釜236 南相馬市立太田小学校 ☎ 0244-22-3822 FAX 0244-24-2087	青田 雅子	草野 正徳 青田 雅子
17	双葉	石井 賢一	笠井 淳一・松本 明美 半杭 千歩	〒963-8861 郡山市鶴見坦3-5-6 (臨時事務局 松本事務局長宅) ☎ 090-4314-1933	松本 浩一	石井 賢一 松本 浩一
18	東京	島貫 金雄	荒木 俊夫	〒185-0014 東京都国分寺市東恋ヶ窪2-31-21 ☎ 042-321-2277	島貫 金雄	島貫 金雄 荒木 俊夫
19	仙台	伊藤 宗男	熊谷 和彦・吉田 利弘	〒984-0038 仙台市若林区伊在3-2-1 仙台市立荒井小学校 ☎ 022-352-3202 FAX 022-288-7168	我妻美知子	伊藤 宗男
20	大河原	古積 裕一	大沼 章・森 貢喜 佐藤 俊憲・日下 嘉充	〒989-0232 白石市福岡長袋字向ノ山45-26 ☎ 090-8614-9976	我妻 宏昭	古積 裕一 我妻 宏昭
21	栗原	小野寺俊幸	佐藤 新一・狩野 浩二	〒987-2215 栗原市築館高田二丁目8-1 栗原市立築館中学校 ☎ 0228-22-3146 FAX 0228-22-2387	佐藤 一博	小野寺俊幸 狩野 浩二
22	本吉	内海 輝幸	荒川 進・齋藤 一	〒988-0183 宮城県気仙沼市赤岩泥ノ木13-1 ☎ 0226-22-5748	西城 敏幸	内海 輝幸
23	大崎 (旧古川)	井坂 亨	兵藤 正昭	〒987-0003 宮城県遠田郡美里町南小牛田 字石神53 ☎ 0229-32-3492 FAX 0229-32-3492	佐々木勝男	井坂 亨 佐々木勝男

# 母校 福島大学・人間発達文化学類だより

卒業・入会祝賀会開催 3/25

令和七年三月二十五日ウエディングエルティにて、令和六年度同窓吾峰会主催の卒業・入会祝賀会が開催されました。この会は、卒業のお祝いと、同窓吾峰会の正会員になるお祝いを兼ねて開催されております。卒業生達は、友人や先生方と最後の語らいを楽しみ、たくさん写真を撮り、今後の再会を誓っていました。最後は万歳三唱で、卒業生の新しい船出を応援しました。

## 卒業生代表あいさつ

大内 暢女



私たちの大学生活4年間を振り返りますと、多くの支えのおかげで、学びが詰まった、充実した時間を過ごすことができたと感じております。入学当初はコロナ禍という予測困難で不安な状況の中、様々な方のご尽力のおかげで無事に入学式を迎え、期待と緊張を胸に新たな一歩を踏み出したことを覚えております。



初澤学類長あいさつ



峯島会長あいさつ

人間発達文化学類では、「理論」と「実践」を往還しながら課題解決能力や現場で生きた実践力を養うことができました。また、福島に根差した課外活動やボランティア活動、アルバイトなどを通して、机上の学びだけでは得られない貴重な経験も多く積むことができました。豊かな自然に恵まれた福島の地で、それぞれが学びを深めた、実りある4年間だったと思います。

そしてこの4年間、常にそばには温かくご指導くださる先生方や仲間が存在がありました。先生方には多くの時間を割いてご指導いただき、悩みに寄り添っていただきました。仲間たちとは日々の講義や実習を共にし、励まし合い、高め合ってきました。私は4年前期に、応用実習や卒論発表会の準備、教員採用試験の対策などが重なり、心身ともに辛い時がありました。しかし、そんなときでも力になってくれたのは、同じ志を持って一緒に頑張る仲間が存在でした。毎日悩みを相談し合いながら乗り越えた経験は、今となっては素敵な思い出です。また、ゼミの同期とは、楽しいことも嬉しいことも、辛いことも共有し、支え合ってきました。私が泣きながら卒業研究の相談をしても、いつも時間をかけて一緒に悩んでくれました。無事にこの卒業の日を迎えることができたのも、仲間がいてくれたからだと感じています。4年間共に学び切磋琢磨した仲間たちは私にとってかけがえのない存在です。これから私たちはそれぞれの道へ進みます。進む道は異なりますが、福島大学で得た知識や経験、出会い、私たちの人生にとって代えがたい財産です。これから卒業生一人ひとりが、福島大学の卒業生としての誇りをもって、それぞれの場所で活躍し、社会に貢献していきます。私は福島県の小学校教員として、福島大学で学んだことを胸に子どもたちとともに成長しながら、地元福島に恩返しできるように精一杯努めて参る所存です。



先生と一緒にピース



乾杯!!



クラス代表紹介



万歳三唱



いつまでも仲良く



役員の皆様お疲れ様



【令和6年度学生表彰者】(敬称略)

団 体

- \*混声合唱団 第76回全日本合唱コンクール東北支部大会 金賞
- \*男子ソフトボール部  
第59回全日本大学ソフトボール大会 北海道・東北地区優勝
- \*女子硬式テニス部  
全日本大学対抗テニス王座決定試合東北地区大会 優勝
- \*陸上競技部  
男子 第75回東北地区大学体育大会 男子総合 優勝 他  
女子 第75回東北地区大学体育大会 女子トラック総合 優勝 他

個 人

- \*文化、芸術の分野で優れた業績をあげた学生  
伊藤 礼香(大学院) 第98回国展彫刻部 千野賞受賞
- \*スポーツの分野で優れた業績をあげた学生  
小泉 宗士 利根川 輝 坂下 想太 藤野 夢 木幡 遙香  
(陸上競技)
- \*優れた学業成績を収めた学生  
人間発達文化学類 大内 暢女

令和六年度  
学生表彰者一覧

コ ー ス 名 ・ 分 野 名	氏 名
教 育 実 践	町田 聖馬
心理学・幼児教育(心理学)	阿部 侑里
心理学・幼児教育(幼児教育)	柴田 結衣
特 別 支 援 ・ 生 活 科 学	本田 瑞稀
芸 術 ・ 表 現 ( 音 楽 )	福田 怜央
芸 術 ・ 表 現 ( 美 術 )	塩澤 紘明
人 文 科 学 ( 国 語 )	後藤 萌音
人 文 科 学 ( 社 会 )	織田 智也
人 文 科 学 ( 英 語 )	大澤 澪奈
数 理 自 然 科 学	武田 隼
ス ポ ー ツ 健 康 科 学	羽染 太陽

クラス代表一覧

研究奨励事業

令和六年度最優秀賞に

安積第一小学校

研究部長 熊田 喜宣

表彰式の開催

令和六年度同窓吾峰会研究奨励事業最優秀賞受賞者は、令和七年一月二十九日に開催されました。

今年度は団体七件の応募があり、人間発達文化学類に設置していただいた審査委員会(数学教育、経済地理学、彫刻、授業研究、教育行政学、理科教育学を専門とする教員六名で構成)で審査の結果、郡山市立安積第一小学校の応募論文が最優秀賞に選ばれ、他の六件は優秀賞との評価をいただきました。(別表)

表彰式において、峯島会長より安積第一小学校鈴木喜克校長に賞状並びに副賞が贈呈されました。

表彰に先立ち、審査委員長の安田俊広教授より審査の経過と結果の報告がありました。

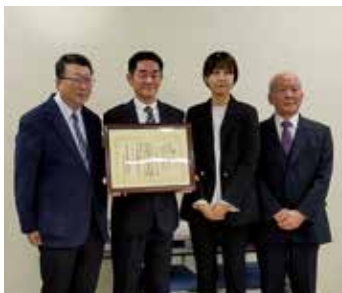
最優秀賞を受賞した安積第一小学校の研究では、まず、目的を達成するために全校的な研究組織を構築し、ぶれない工夫を加えていることが挙げられる。ま

た、多くの互見授業で他者からの学びを大切にし、共通フォーマットによる記録は、活用しやすい工夫した実践記録となっていること。中教審答申(平成二十年)で示された六つの観点と、タブレットの五つの教育機能に着目したうえで、実践による具体的な活用手法が検討され、各学年でのその整理と子どもの学びの質的变化に丁寧な検討を加え、一覧化した点は今後の実践に大いに役立つことが挙げられよう。これらの手立ての効果は、アンケート調査で定量的な検討を加え、学級単位の分析にフィードバックされている点も評価される。

六つの観点のうち、観点によっては実践数に差があり、今後の実践においてさらに深められることが望まれる。研究の客観性をより高めながら、より学習者の目線に立った分析を加えた研究が継続されることを期待したい。



最優秀賞受賞



研究奨励事業表彰式

の、実践の記録が体系的に整理・蓄積されており、児童の実態と合わせて質的・量的な視点での分析も行われているの蓄積された結果は、今後と比較検討に資するデータと判断でき、他校への波及効果が期待できる点も多く最優秀賞と判断した、との講評をいただきました。

次いで、初澤学類長より、ICTなどが得意の先生だけでなく全ての教員で取り組んでいる点を特に評価したい。他の先生、他の学校に波及できるものとなっているので大いに発信し続けて欲しい、との祝辞が寄せられました。

安積第一小学校鈴木喜克校長から、幅広い年齢層の教員組織が、タブレットはツールであることを確認の上、それが必須の時代にどう実践し、どう子どもに返すかを念頭に研究を進めてきたが、最大の成果が学び合う集団になったことである、との謝辞が寄せられました。なお、同校研究主任の丹治こずえ教諭も同席されました。

安積第一小学校の研究概要については、本会報の他に人間発達文化学類附属学校臨床支援センター紀要にも掲載されます。

なお、優秀賞の六件につきましては、各支部事務局を通して賞状と副賞が贈呈されました。

本年度の募集について  
本年度も本事業は継続して実施致します。ご不明の点は本部事務局までお問い合わせ下さい。

時折審査期間中に応募物の返却依頼があります。大学の事情により、結果が出るのは年末となりますので、早めの返却希望が予想される時は、コピーしておくことを願います。  
(昭41卒 福島支部)

## 最優秀作品の概要

豊かに伝え合い、共に高め合う児童の育成

～思考力・判断力・表現力を高めるための  
タブレット端末の活用～

郡山市立安積第一小学校

校長 鈴木 喜克

### 一、研究主題設定の理由

本校の児童の実態を考えると、学習したことを自分の言葉で表現する力や自分の考えに順序や理由をつけて分かりやすく伝える力、学習したことを新たな問題や生活の中で活用する力に課題が見られた。また、学習への興味・関心や学力に個人差が見られることから、タブレット端末等を活



タブレットの活用

### 二、実践内容

①「共同研究部会」を中心に、共同研究を通して全職員で共通理解を図りながら実践を進めた。  
②原則として毎月現職の研究日を設け、計画的・継続的な研究を進めた。

③「共同研究部会」「学力向上部会」「調査・資料部会」を設置し、互いの取り組みを関連させながら研究を推進した。

④一人一授業の授業実践を行い、スキルアップを図った。ブロックで一授業は全体授業とし、全員で参観・事後研を行った。

⑤研究のまとめを作成し、成果と課題を明らかにすることで、今年度の研究を振り返り、次年度の研究につなげた。

### 三、研究の成果と課題

全校生のアンケートを集計すると、全ての項目において第1回目より第2回目が増えることがなかった。これは、児童の学習に対する前向きな姿勢と教師の継続的な授業改善の取り組みにより、意欲をもたせたまま日常の学習を行うことができていた結果であると考えられる。また、タブレット端末の日常的な活用の表れであるとも言える。授業実践を通してその有用性が見えてきたので、その成果と課題を共有し、今後も児童の資質・能力を高めるためのタブレット端末の活用について検討を重ねていきたい。

(昭63卒 郡山支部)

## 仲間たちの「想い」 発信⇄受信

### 会員からの便り

角田 文代

「学生歌!」、つい、なつかしさのあまりペンをとり「吾峰」に投書しました。「学生時代の思い出」も投書しましたが、なんと、2通とも載っているではありませんか。早速、後輩からの反応がありました。嬉しいことでした。「吾峰154号」(10)は私を65年前につれていってくれました。

1、藤棚コーラス  
もう藤棚はないでしょうね。アコを弾いていた大谷君元気かな。  
2、仁志田先生

私は音楽科指導法を4年生の時にとりましたが、雨の降る日の授業、4年生でただ1人出席した私に唯一優をくれた先生です。ほかの4年生は欠席したようです。オンチの私にとつて、この優は輝いています。

### 3、佐藤徳重さん

(如月寮歌の作者)

我がふるさと浅川町の大先輩です。おれげの息子はチンドン屋みたいことやって、「先生」になれるかと母親を悩ましたが、先生になって安心させました。

この「吾峰154号」は、永久保存です。そして、年寄りの私に希望を与えてくれました。心からお礼を申し上げます。よき「吾峰」を作ってください。まずはお礼まで。

(昭35卒)

## 編集後記

会員の皆様に会報を滞りなくお届けすることができ、嬉しく思っております。本号を企画し、私たちの中心となって進めてきたくださった持地隆一編集委員長が急逝し、戸惑いながらの編集作業でした。それでも、何とか編集委員長が示した方針に基づき計画通りに作業を進め、発行することができました。今更ながら編集委員長の功績に敬意を表します。また、原稿等をお寄せいただいた方々、共に作業を進めてくれた編集委員に心より感謝申し上げます。今後とも会員の皆様に楽しんでいただけるような会報をお届けしたいと思っております。

## 入賞作品・入賞者名

### 【最優秀賞】

◎豊かに伝え合い、共に高め合う児童の育成  
～思考力・判断力・表現力を高めるための  
タブレット端末の活用～  
郡山支部 郡山市立安積第一小学校 代表 鈴木 喜克

### 【優秀賞】

◎「考えを深める算数科授業を目指して」  
～教師のコーディネートとしての発問をもとに～  
南会津支部 南会津町立田島小学校 代表 栗木 孝直

◎やわらかな感性で、しなやかに学び合う子どもの育成  
～9つの力を育む教師の在り方～  
福島支部 福島市立福島第三小学校 代表 齋藤 雅敏

◎対話的な造形活動を通し、つくりだす喜びを味わい、  
自分の思いを豊かに表現できる授業の展開 ～発見～  
いわき支部 いわき市立磐崎小学校 代表 粥塚 保則

◎学びを創る  
～「個で追究する力」を育む授業の創造～  
郡山支部 郡山市立金逢小学校 代表 嶋 忠夫

◎学び続ける子どもを育む西田の教育  
～「たて」「よこ」のつながりがつむぎだす学び～  
(2年次) 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実  
郡山支部 郡山市立西田学園 代表 亀井 義弘

◎対話を通じて学びを深め、高め合う子どもを目指して  
(郡山市立明健小学校、同明健中学校、同行健第二小学校、  
同小泉小学校の4校による共同研究)  
郡山支部 郡山市立明健小学校 代表 遠藤 洋一

## 会報「吾峰」の原稿や作品等の送り先

### 宛先・連絡先

福島大学人間発達文化学類 同窓吾峰会  
〒960-8103 福島市舟場町4-30  
福島大学街なかランチ舟場  
電話 024-529-7081  
FAX 024-529-7082  
Eメール gohou@ktd.biglobe.ne.jp